

流通2強に明暗 ライバル・セブンが最高益、大幅減益のイオンはどう対処するか？

平成26年11月4日発行(隔週火曜日)平成26年10月21日発売 昭和28年10月3日第三種郵便物認可 第62巻第22号

「今こそ建学精神の実践を！」
特別対談
根津育英会武蔵学園
理事長 根津 公一
学園長 有馬 朗人

財界

ZAikai
a Japanese business biweekly

秋季特大号
2014 11/4

◎インタビュー

JTB社長
高橋 広行

早稲田大学
ビジネススクール教授
内田 和成



おもてなし文化、日本の美を取り込んだ新たな日本経済を――

東京五輪
組織委員会
事務総長
武藤敏郎の

ハード、ソフト両面で日本の転機に

本誌主幹 村田 博立

表紙の人
山種美術館館長
山崎 妙子
撮影 齊田 勤

J A A S が「第5回東京Live Forum」を開催



9月28、29日の両日、一般社団法人JAAS（日本アンチエイジング外科・美容再生研究会）の主催による「第5回JAAS 東京Live Forum」が開催された。JAASは2010年に発足。美容医療業界の発展をめざし、ライブ講習会や海外派遣研修、解剖・執刀トレーニングなどを中心に医療技術の向上や会員同士の交流を図つてきた。



田中亚希子医師による「3Dリフトによる二重あごの治療」

てきた。出身大学や派閥にとられない自由な立場での活動が特徴だ。

当日は会場となった東京・赤坂の「TKP赤坂駅カンファレンスセンター」に医師やエステティシャンなど、関係者約300人が全国から集結。外科、内科、歯科、エステティシャンなど、国内外から専門のスペシャリストを講師に招き、施術や治療法などについて動画解説を交えて、実践的な研究を行った。

午後からは東京・銀座の東京皮膚科・形成外科と赤坂の会場とをつなぎ、「クマ治療」や「最新の切らない下顔面形成」といった施術をライブで中継。今回は手術を受ける患者も医師が担うという初の試みである。

JAAS理事長の池田欣生氏は「医師同士が互いに切磋琢磨し、レベルアップを図ることで、業界全体の底上げを図りたい」と語る。

JAASの年次総会であるライブフォーラムも今回で5回目。回を重ねるごとに医療関係者から熱い視線が注がれている。

「お互いの医療技術を持ち寄り、更なるレベルアップを図りたい！」

4人に1人が65歳以上となるなど、高齢化率が高まる一方の日本。そうした状況下、「日本の美容医療は市場として大きな可能性がある」と池田氏は語る。近年は美容医療の保険適用の範囲も拡大しており、女性のみならず男性でも美容医療への関心が高まっている。美容医療の最前線に迫ると――。

日本アンチエイジング外科・美容再生研究会（JAAS）理事長

池田欣生

美容医療の保険適用が増えてきた！

まずは、今回の「第5回JAAS（日本アンチエイジング外科・美容再生研究会）東京Live Forum」開催の意義について説明してもらえますか。

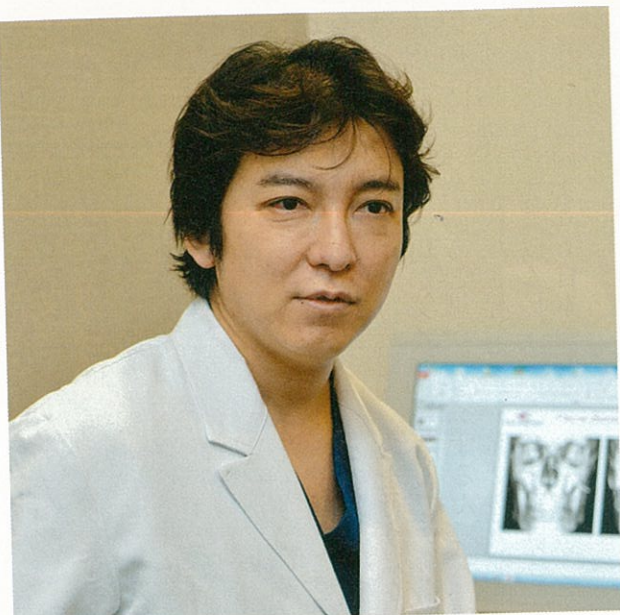
池田 昨今、日本でも「抗加齢」に対する関心が高まってきました。一番わかりやすい例が、シミをとったり、小ジワをとったり、まぶたのたるみをとったりする施術が多くなってきました。これはな

ぜかというと、美容医療の保険適用が増えてきたからというのがあると思います。

そういうこともあって、今まで老化イコール歳だから仕方ないと諦めていたものが、今は諦めずにすむ世の中になってきたんですね。その結果、腰をくの字に曲げたようなおばあちゃんの数が今減っているんですよ。

—— 高齢化社会なのに減っているんですか。

池田 はい。まぶたが重くなってきたり、目が開かなくなるから、今まではおばあちゃんも首を出して腰を曲げて前



いけだ・よしお
大阪医科大学卒業。1996年大阪医科大学付属病院形成外科入局。大阪医科大学付属病院形成外科病棟医長、東海大学病院形成外科・美容外科臨床助手を経て、2000年大阪いけだクリニック開院。04年銀座いけだクリニックを開院。形成外科専門医。現在は東海大学病院形成外科非常勤講師、JAAS（日本アンチエイジング外科・美容再生研究会）理事長をつとめる。



病院と会場を結んで手術風景のライブ中継。患者自身も医師という新たな試みだ

のめりになっていったんです。ところが、目のたるみをとることで姿勢が良くなって、結果的に視界が開くようになってきた。だから、背中を丸める必要が無くなったと言われているんです。

実際にボトックス注射などの「プチ整形」の数はアメリカや中国に次いで、日本は第3位に躍り出ました。実は皆さんのイメージで韓国が美容大国のイメージがあると思うんですが、実は韓国は世界で7位くらいに過ぎません。

—— 韓国よりも日本の方が数が多いと。
池田 そうなんです。結局、日本ではこっそりやるというか、周りに整形したとか言いませんよね。でも、実際の手術件数は増えている、クチコミで増えてきている他に、シミやシワに関して言うとテレビなどでも大分取り上げられるようになったことが大きいのかと思います。

—— 具体的なにはどんなことをするのですか。
池田 ここでは美容医療などの臨床研究に関する研究発表を行うほか、病院と会場を結んで手術風景をライブ中継するんです。今回は術者が医師であるのは当然として、患者さん自身も医師がつとめるという初めての試みです。

—— J A A Sの会員の医師同士で実証していくと。
池田 結局、美容医療の手術を受けた方々が数年後にどうなっているかを調べるのがとても難しいんです。でも、患者さんに連絡をとろうと思ってもなかなか難しいということと、それなら医師同士でやってみよう。実は手術というのはわたしたち医師自身が最も多く体験しているのです。

長く保とうという新しい医学です。健康も若さも要は歳をとるから病気になることがわかってきているので、歳をとらないように内面の若さを保つことで病気になるにくくしようという考え方なんです。いまはご存知のように、日

本は世界で最も高齢化が進んでいる国で、医療費もどんどん増加している。それを防ぐための新しい医学だと考えていただければ、と思います。

—— 今日本人の4人に

ませんし、お互いに研究者として術後にどういう経過を辿っていくのか興味がありますので、それをみんなで検討していこうと考えたのです。

海外の国々との技術競争に負けてしまわないために……

—— そもそもJ A A Sとはどういう組織で、立ち上げた理由は何だったのですか。

池田 J A A Sは美容医療業界の技術とサービス向上を目指すアンチエイジング・美容医療に特化した研究会です。すでに一般社団法人になりました。

実は1990年代までは美容外科や形成外科、皮膚科の医師の数というのはいまより変わらなかったんですが、この10年くらいで飛躍的に増えてきました。

—— ところが、この業界というのは自分たちの技を隠したがるというか、手の内を見せようとしませんね。でも、そんな状態ではレベルアップにも限界があり、海外の国々との技術競争にも負けてしまいます。そのように考えて、

1人が65歳以上となりまして。今後ますます高齢化率が高まっていくことが予想されるわけですが、そういう状況下で美容医療の今後というのはどう見えていますか。

池田 日本は美容医療の市場として大きな可能性があると思っています。いまの若い人、例えば、20代から30代、40代くらいの方がすごく頑張つてダイエットしていますよね。若い人はお金はかけられないかもしれないけど、見た目にすごく気をつかうんです。

でも、実は歳をとると皆さん身体能力を高める道具にお金をかけるんです。例えば、歯のインプラントであるとか、耳が聞こえないから補聴器を購入するとか、そういう道具にはお金をかけるんですが、まだ見た目にお金をかける人はそんなにいません。

—— 逆を言えば、見た目にお金をかける人が少ない分、ちょっとシミをとったりするだけで、すごく若返ったように見えるんです。その分、わたしは高齢化が進めば進むほど、ますます見た目に差が

J A A Sは発足しました。—— 改めて、美容医療という分野の今日的意義は何かといわれたら、どのように答えますか。

池田 人間が生きていくのに死は避けられません。しかし、医療技術の発達で平均寿命はどんどん長くなっています。ですから、ピンピンコロリじゃないですけど、残された余命を出来るだけ楽しく、明るく生きたいと思うのは全人類の共通した願いだと思います。

結局、わたしたちは誰しも美味しいものが食べたい、いろいろな人に出会いたい、そして究極は不老長寿じゃないけど、ずっと健康でいたいと願っています。抗加齢というように、この医療はそうした人々の願いが詰まった新しい医療なのです。

—— 世界3位といっても、まだまだ日本人の意識の中には親からもらった身体を傷つけてはいけない、といった考えも根強いと思うんですが。

池田 これはあくまでも顔を変えたいというわけではなく、自分の若いときの状態をつくような時代になってくると思いますね。

—— 見た目で差がつく時代になる？

池田 ええ。最近、うつ病などの問題が深刻な社会問題になってきているんですが、やはり歳をとるとうつ病になる傾向が強いです。ところが、筋肉をつけることによってうつ病対策になるのではなにか？ という研究が進展められていて、われわれも筋肉をつくりだす機械を研究しています。

—— 要は、寝たきりとかリハビリ状態が長く続く筋肉が萎んでしまうじゃないですか。そこを筋肉を鍛えることによって、心理的にも明るくなるように。やはり筋肉量を保つことによって、いつまでも長生きで、明るく健康に生きることができれば素晴らしいですよ。

—— 歳をとったからと諦める人生をおくるのではなく、そうやって人生を楽しみながら長生きすることができるよう、われわれが手伝いできることがあればやっていきたいと思えます。